

3 特殊分類別（財別）鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き

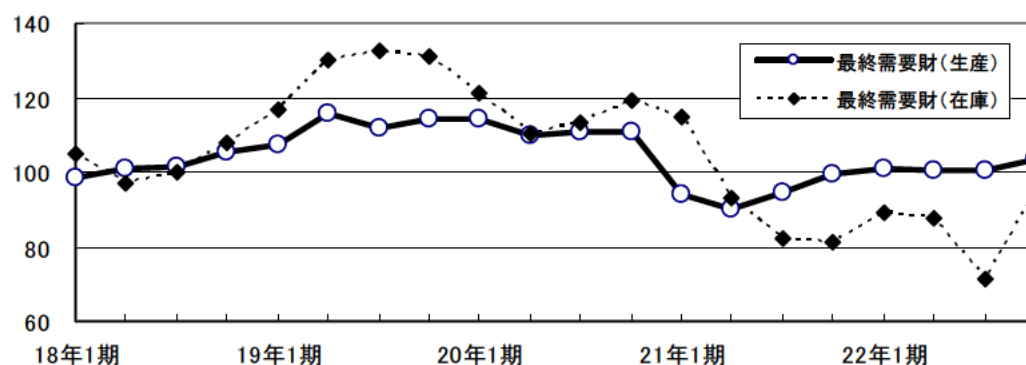
1 最終需要財

平成 22 年の最終需要財の生産指数は 101.6 で、対前年比 7.4%上昇しました。（表 4）

四半期別にみると、1 期 101.1（対前期比 1.4%増）、2 期 100.5（同 0.6%減）、3 期 100.6（同 0.1%増）、4 期 103.6（同 3.0%増）となりました。（表 8）

また、在庫指数の年平均は 85.8 で、対前年比 7.7%低下しました。（表 6）

四半期別にみると、1 期 89.0（対前期比 9.7%増）、2 期 87.6（同 1.6%減）、3 期 71.4（同 18.5%減）、4 期 94.0（同 31.7%増）となりました。（表 10）



1-1 投資財

平成 22 年の投資財の生産指数は 96.5 で、対前年比 18.7%上昇しました。（表 4）

また、在庫指数の年平均は 86.0 で、対前年比 15.9%低下しました。（表 6）

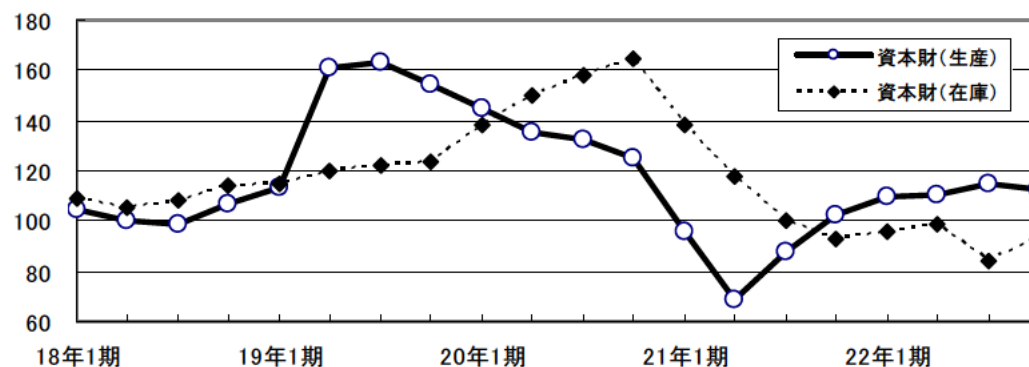
1-1-1 資本財

平成 22 年の資本財の生産指数は 112.1 で、対前年比 26.7%上昇しました。（表 4）

四半期別にみると、1 期 110.0（対前期比 7.6%増）、2 期 110.3（同 0.3%増）、3 期 115.2（同 4.4%増）、4 期 112.5（同 2.3%減）となりました。（表 8）

また、在庫指数の年平均は 93.5 で、対前年比 17.8%低下しました。（表 6）

四半期別にみると、1 期 96.2（対前期比 3.3%増）、2 期 98.6（同 2.5%増）、3 期 84.4（同 14.4%減）、4 期 93.9（同 11.3%増）となりました。（表 10）



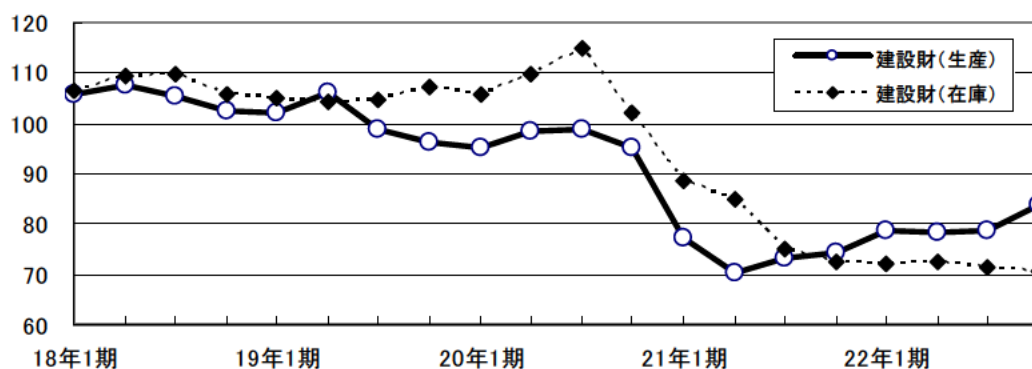
1-1-2 建設財

平成 22 年の建設財の生産指数は 80.0 で、対前年比 8.7%上昇しました。（表 4）

四半期別にみると、1 期 78.6（対前期比 5.9%増）、2 期 78.4（同 0.3%減）、3 期 78.8（同 0.5%増）、4 期 83.9（同 6.5%増）となりました。（表 8）

また、在庫指数の年平均は 71.6 で、対前年比 10.6%低下しました。（表 6）

四半期別にみると、1 期 71.9（対前期比 0.8%減）、2 期 72.6（同 1.0%増）、3 期 71.3（同 1.8%減）、4 期 70.6（同 1.0%減）となりました。（表 10）



1-2 消費財

平成 22 年の消費財の生産指数は 104.8 で、対前年比 1.9%上昇しました。（表 4）

また、在庫指数の年平均は 85.6 で、対前年比 2.9%上昇しました。（表 6）

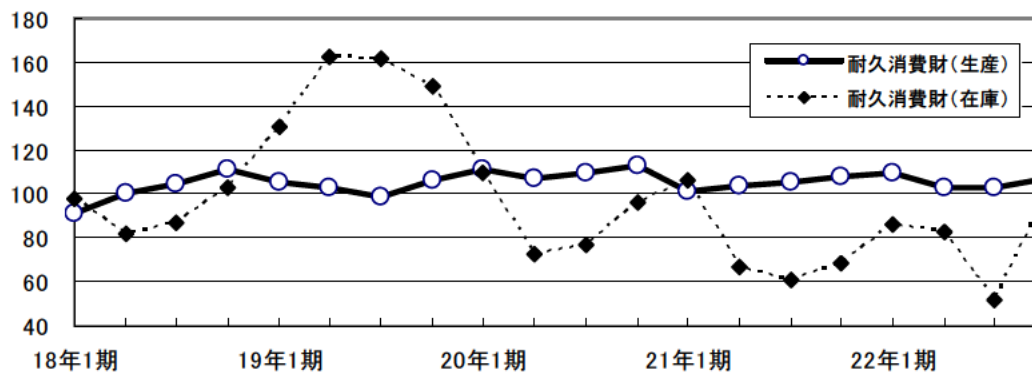
1-2-1 耐久消費財

平成 22 年の耐久消費財の生産指数は 105.7 で、対前年比 1.0%上昇しました。（表 4）

四半期別にみると、1 期 109.3（対前期比 1.4%増）、2 期 102.5（同 6.2%減）、3 期 102.9（同 0.4%増）、4 期 107.4（同 4.4%増）となりました。（表 8）

また、在庫指数の年平均は 81.6 で、対前年比 7.2%上昇しました。（表 6）

四半期別にみると、1 期 85.8（対前期比 25.4%増）、2 期 82.5（同 3.8%減）、3 期 51.4（同 37.7%減）、4 期 99.8（同 94.2%増）となりました。（表 10）



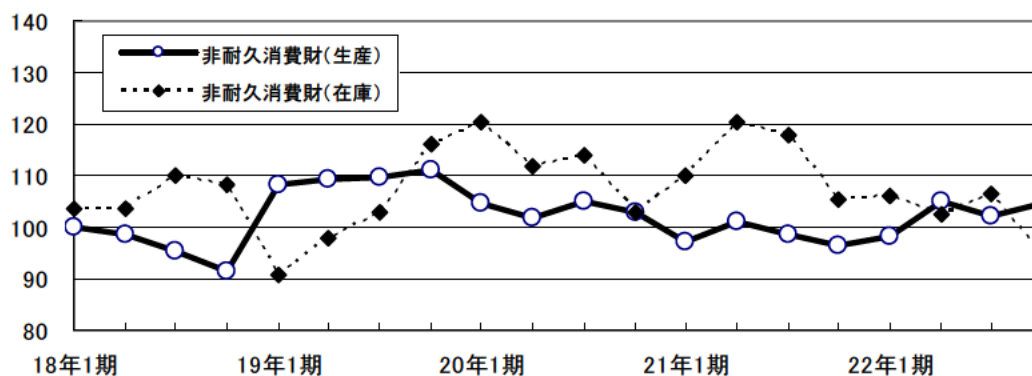
1-2-2 非耐久消費財

平成 22 年の非耐久消費財の生産指数は 102.6 で、対前年比 4.4%上昇しました。（表 4）

四半期別にみると、1 期 98.2（対前期比 1.7%増）、2 期 104.9（同 6.8%増）、3 期 102.1（同 2.7%減）、4 期 104.8（同 2.6%増）となりました。（表 8）

また、在庫指数の年平均は 102.4 で、対前年比 9.5%低下しました。（表 6）

四半期別にみると、1 期 106.1（対前期比 0.8%増）、2 期 102.5（同 3.4%減）、3 期 106.6（同 4.0%増）、4 期 94.7（同 11.2%減）となりました。（表 10）



2 生産財

平成 22 年の生産財の生産指数は 103.4 で、対前年比 21.1%上昇しました。（表 4）

また、在庫指数の年平均は 111.7 で、対前年比 7.4%低下しました。（表 6）

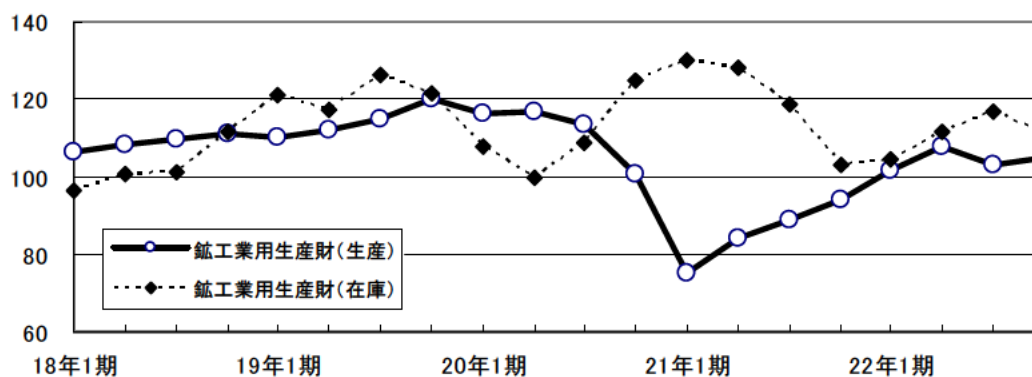
2-1 鉱工業用生産財

平成 22 年の鉱工業用生産財の生産指数は 104.3 で、対前年比 21.6%上昇しました。（表 4）

四半期別にみると、1 期 101.5（対前期比 8.0%増）、2 期 107.6（同 6.0%増）、3 期 102.9（同 4.4%減）、4 期 104.9（同 1.9%増）となりました。（表 8）

また、在庫指数の年平均は 111.0 で、対前年比 7.5%低下しました。（表 6）

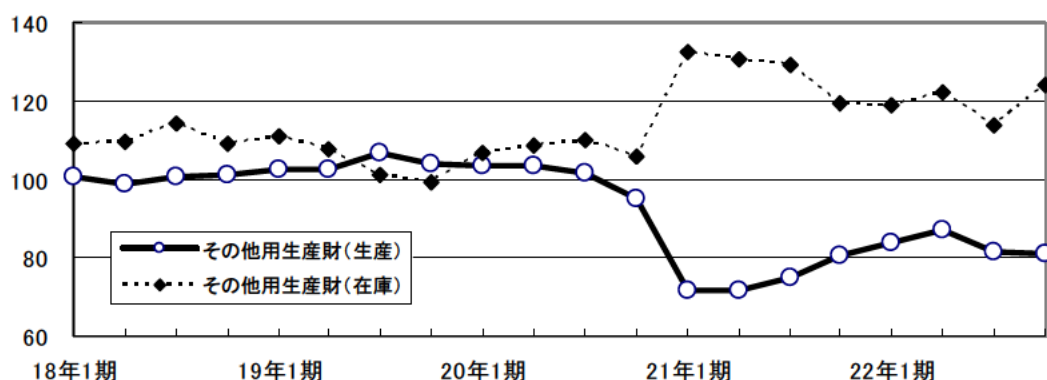
四半期別にみると、1 期 104.3（対前期比 1.2%増）、2 期 111.4（同 6.8%増）、3 期 116.9（同 4.9%増）、4 期 111.2（同 4.9%減）となりました。（表 10）



2-2 その他用生産財

平成 22 年のその他用生産財の生産指数は 83.4 で、対前年比 11.5%上昇しました。（表 4）
四半期別にみると、1 期 84.0（対前期比 4.2%増）、2 期 87.1（同 3.7%増）、3 期 81.5（同 6.4%減）、4 期 81.0（同 0.6%減）となりました。（表 8）

また、在庫指数の年平均は 119.7 で、対前年比 6.6%低下しました。（表 6）
四半期別にみると、1 期 118.9（対前期比 0.3%減）、2 期 122.3（同 2.9%増）、3 期 113.9（同 6.9%減）、4 期 124.2（同 9.0%増）となりました。（表 10）



「季節調整」 とは？

指数には「原指数」と「季節調整済指数」の2種類がある事にお気づきでしょうか？

例年、年末年始のある12月、1月、ゴールデンウィークのある4、5月、お盆休みのある8月は勤務日数が少ない為、生産活動が低下するといわれていますが、本当にそれを生産水準の低下と考えて良いのでしょうか？

鉱工業の生産は、季節的な要因や社会的慣習等により1年を周期として変動するので、前月や前四半期との比較を行なう場合には、そのような季節要因をとり除く必要があります。これを「季節調整」といいます。